

2024年度から108自治体が施行
2026年度～「こども誰でも通園制度」って何？

本格実施 **碧南市では？**

2025年度～小規模保育園発足「碧のうさぎ」の法人に
碧南市は2025年度から保育の入所基準が「月90時間→月60時間」に緩和され、小規模保育園を公募していました。
2法人から提案書が出され、現在「碧のうさぎ」を運営する法人に決まりました。もう一社は横浜市のランドマークタワー38階の株式会社エクシオジャパンでした。
(1)所在地：碧南市向陽町1丁目「碧のうさぎ」隣接地
(2)定員：19名(0歳/6名 1歳児/6名 2歳児/7名)
(3)開所日：2025年4月1日
(4)給食：碧のうさぎから運び込み

子どもや保育のストレス懸念
危惧されます。
子どもや保育のストレス懸念
危惧されます。

親の都合優先？
親の就労にかかわらずすべてのこどもの育ちを応援する「こんな看板を掲げて、政府は「こども誰でも通園制度」を創設しようとしています。国会で審議中の子ども・子育て支援法改定案に盛り込まれており、2026年度から全国での実施が目指されています。
6カ月～2歳児対象。就労なしで
家庭とは異なる経験のなかで成長できる機会を保障する。在宅で子育てする保護者の孤立感や不安感の解消につながる」と政府は意義を強調します。
その中身は、親が就労しておらず保育所などに通っていない生後6カ月から2歳の子どもを対象に、月一定時間(当面10時間)までの利用枠の中で時間単位で預けられるというものです。
こどもを中心に・・・というが
政府は、現在の一時預かり事業が保護者の立場からの必要性に対応するものなのに対し、新制度は「こどもを中心に

考えるもの」だとします。
子どもも保護者も、保育の専門家や家族以外の人と交流しながら子育てできる環境の整備は重要で、多くの保護者の要求です。しかし、提案されている誰でも通園制度はあまりに看板倒れです。
大見知り」時期に、スマホで申し込み？
利用は事業者との直接契約です。預ける園・曜日・時間を決めて定期的に利用する方式(平日5時間月2回、1日2時間で週1回など)だけでなく、スマートフォンアプリで空き状況を見てその都度、空いている園・時間にスマホから直接申し込む方式が考えられています。
企業参入も
政府は、柔軟に「簡単に」タイムリーに「予約できることを新制度の利点として押し出し、できるだけ利便性を高めたシステム」にするとしています。空きがあれば直前の予約も可能で、全国どここの事業所にも予約できます。実施場所は保育所、認定こども園などのほか、駅周辺など利便性の高い場所とされ、企業の参入が狙われています。

子どもも安全危惧
市町村が事業所を認可しますが、認可基準は緩く、必要な保育従事者のうち保育士は半分でよいとされています。乳幼児を事前の面談なしに保育士資格のない人がみることが可能な仕組みです。制度の詳細は、昨年度から始まった試行的事業の状況を踏まえて検討するとされますが、つらくろうとしている制度は政府が理念に掲げるようなものではありません。子どもの安全が保てるのか強く危惧されます。
豊かな保育は、経験と補償から
「こどもを理解するには一定の時間がかかる」今通っているこどもたちの保育に支障がある「はならない」と指摘されています。
すべての子どもの育ちを応援するには法案のやり方ではだめです。保育士の配置基準を抜本的に改善し、専用の保育室を確保し、親の就労にかかわらず公が責任を持つ保育施設に入れる体制をつくるべきです。
日本の保育士の配置基準は諸外国と比べて低く、保育士1人が見る子どもの数が多すぎるのが現状です。そこに新たな子どもが短時間、日替わりで来るとなれば現場の負担はさらに増えます。アレルギーや発達状況など必要な情報が把握されず命にかかわる事故が起きかねません。慣れない環境に置かれる子どものストレスが懸念されます。
来年からは年60時間から入園可
政府は2025年度から、入所基準を月90時間を60時間に緩和します。
碧南市は2024年度から、羽久手・日進保育園で1歳児保育を暫定的に行っています。
現在公立保育園5園のうち鷺塚保育園以外は0・1歳保育をやっています。民間法人を公募するならば、公立保育園での0・1歳児保育を行うことが必要です。

公立保育園の0～2歳児の状況 7/1現在

公立保育園	0歳	1歳	2歳	総数 (3～5歳含む)	定員
羽久手	0	5	6	55	55
天道	0	0	11	69	90
築山	0	0	12	80	95
日進	0	9	11	136	140
鷺塚	6	20	24	193	190
公立合計	6	34	64	533	570

自治体学校 in 神奈川 に参加して 磯貝明彦

7月20日、21日に行われた自治体学校に参加してきました。1日目は横浜市鶴見公会堂で全体会が行われ、奈良女子大学名誉教授の中山 徹氏による基調講演、そして、フォトジャーナリストの安田菜津紀氏の記念公演が行われました。

「こども誰でも通園制度」の問題点

2日目は市立横浜大学で分科会が行われ、私は「少子化克服に向けて、政府と自治体の公的責任を考える」に参加してきました。今、想定以上のスピードで進む少子化に対して、政府は「異次元の少子化対策」を進めるとして、「こども未来戦略方針」を決定。少子化の実態と政府の対策の問題点、少子化を克服するための抜本的な対策を明らかにするとともに、政府・自治体の役割、保育所のあり方について講義がおこなわれました。そこで取り上げられたのが、政府が26年度から実施する「こども誰でも通園制度」の問題です。

公的保育制度に風穴

対象となるのは0歳6カ月～2歳児の未就園児のいるすべての家庭で、保育園・幼稚園に在籍していないのが条件です。この制度の問題は利用者と事業者の直接

契約なので、公的契約を基本とする公的保育制度に風穴がかけられる可能性があります。

営利企業の参入も

給付と利用料が施設に直接支払われることで営利事業者が参入する可能性も指摘されました。また、年齢的に人見知りや場所見知りが多い時期に、月に1日だけ、あるいは週に2時間だけ預けられる、最悪の場合、空きがある施設を転々とされるなど、まるで荷物のように意見も出ていました。私は、この制度はこどもの権利が尊重されていない制度だと思いました。

先進国との違い、歴然

保育先進国のフィンランド・スウェーデンは、保育を全ての子どもが享受すべき権利と位置付けています。保護者の就労の有無にかかわらず、すべての子どもに等しく上質な保育が提供されます。日本がそうならば、長時間保育の短縮、保育者の社会的地位向上。賃金・労働条件は大きく改善されます。そのために、この国の労働のあり方を変え、労働者の生活を変えなければなりません。保育関係者だけでなく、多くの労働者とながって運動を前進させましょうと、提起されました。

築山町3丁目道路の凹み改修

磯貝明彦議員に、道路の凹み、ヒビ割れで、水たまりができ困っていると、地域住民の方から要望が寄せられました。付近の方からは「雨降りの日には家の出入り口付近に水たまりができる」とも言われました。7月17日に土木港湾課に改善を求めました。

築山町交差点北の全面舗装が必要

築山交差点の南側は、2年前道路全面舗装がされています。築山町交差点北の全面舗装の計画はあるのか」と聞いたところ「舗装状態が悪いという認識はあるが、いまのところ予算付けして工事を行っていく計画はない」とのことでした。全面舗装工事と、緊急に改修を求め7月19日に工事をやっていたいただきました。担当職員、業者の方、早急の対応ありがとうございます。道路沿線の方々も喜んでいただきました。



大軍拡・大増税許すな

8月19日(月曜日)午前11時～12時

ピアゴ碧南東店

碧南市東浦町6-17 (日進小学校南)

<http://hekinan.jcpweb.net/>
日本共産党碧南市議員団のホームページをご覧ください。



日本共産党碧南市議団



市議会議員
山口はるみ
☎42-8940
三度山町 2-70-4



市議会議員
磯貝明彦
☎48-2718
若松町 3-253

憲法がいきる地方自治の発展へ向けた学びと交流
第66回自治体学校 in 神奈川
13:15 開校
しばらくお待ちください。
7月20日(土)・21日(日)

